

労働社会における問題を制度から考える

研究の概要

働くということは、生活を支える基盤を作るための活動であると同時に、やりがいや生きがいなど人生に意義をもたせるための活動です。その意味で労働は人が生きていくときに重要な意味をもつ活動となります。重要な意味を持つ活動であるにも関わらず、現代の日本社会では、労働にさまざまなリスクが発生しています。ときには過労死・過労自殺のように命にかかわるリスクまで生じてしまいます。

労働社会における問題がなぜ起きるのか、どのように対応すればよいのか、を制度から考えるのが本研究の概要です。労働社会における問題に対応する制度はさまざまに存在します。雇用に関しては人事管理制度、社会的に発生する労働問題に関しては労働政策、労働問題から波及して起きる生活上の問題に関しては社会保障政策がそれぞれ存在します。

本研究では、これらの諸制度を組み合わせ、問題の要因と対応策について考えていきます。

研究の特徴

- ・雇用に関する問題の要因・対応について、人事管理制度の相互関連性を重視した制度分析を行う。
- ・雇用・労働から派生する社会問題について、社会政策の観点から要因分析と対応策の検討を行う。
- ・現代日本社会における社会問題を生活上の問題ととらえ、労働に関わる制度の観点から要因分析と対応策の検討を行う。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

連携した取り組みの例は過去にありませんが、中央官庁や地方自治体における雇用制度に関する検討の場（委員会や研究会など）には多数参加の経験があります。

研究者からのメッセージ

労働・雇用に関する問題は人生そのものに関わる問題です。問題解決のサポートができれば、研究者としてありがたいことと考えています。

研究分野：労働問題研究、社会政策、歴史制度分析

研究者の所属部局・職位・氏名：和歌山大学経済学部 経済学科・教授・岡田真理子

本件に関するお問い合わせ：liaison@ml.wakayama-u.ac.jp